

令和5年度
第2回朝日地域振興懇談会

会議録（概要）

期日：令和5年10月12日（木）

場所：朝日庁舎 大会議室

令和5年度 第2回 朝日地域振興懇談会会議録 (概要)

- 日 時 : 令和5年10月12日 (木) 18時から20時05分まで
- 会 場 : 朝日庁舎 大会議室
- 出席委員 : 難波金一、進藤 享、伊藤ます子、宮崎 正、大瀧博勝、渡部巖、
難波一之、難波志津香、今野めぐみ、伊藤比呂貴、伊藤由紀子 計11名
- 欠席委員 : 青澤豊一、宮崎ちよ、菅原邦義、清野吉喜、
- 市側出席職員
 - 【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、
総務企画課 上野地域まちづくり企画調整主査、渡部専門員
 - 【本所】企画部政策企画課 帯谷政策企画専門員、地域振興課 齋藤地域振興専門員
都市計画課 鈴木管理主査、若生都市計画係長 計10名

一次 第一

1. 開 会

2. あいさつ

難波会長あいさつ

鶴見朝日庁舎支所長あいさつ

3. 協 議

- (1) 鶴岡市中心市街地将来ビジョンの策定について
- (2) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画 (案) について
- (3) 朝日地域振興計画 (案) の具体的な施策について
- (4) 朝日地域まちづくり未来事業の取組状況について
- (5) その他

4. そ の 他

5. 閉 会

1. 開 会 18時（進行 総務企画課長）

2. あいさつ

難波会長あいさつ

鶴見朝日庁舎支所長あいさつ

3. 協 議

会長 それでは協議（1）について事務局より説明をお願いします。

（事務局説明）

会長 事務局から説明がありましたので、これらを踏まえて、皆様からの質問、意見を頂きたいと思っておりますので、ご発言をお願いします。

委員 全体像は何となくぼんやりと見えて、具体的な内容はこれからになるのか分からない中ではあるが、ネットワークによって朝日地域も楡引地域や鶴岡地域と繋がるといのは、どのような繋がりがあるのか、あれば伺いたい。

都市計画係長 ネットワークで繋ぐことについて、今は移動の方法としては自家用車が主流であり、例えば子育て世代の人たちにとっては自家用車は手放せないものになっていると思うが、これから時代が少し先に行くにつれて、免許の返納率が増え、もしかしたら自動運転が出てくるかもしれないが、一つは自分の車がなくても移動できる手段を確保する公共交通と考えている。また、交通での移動だけではなく、例えば、ITとしてインターネット環境が整っている状況で、それを活用して居ながらにして繋がっていくこともネットワークの一つではないかと考えている。

委員 地域の人の交通の足もそうであるが、鶴岡から朝日へのバスの本数やスケジュールが生活者目線になっていて観光向けではない。イベントを行う時に都市部から人が来るとなるとなかなか難しい面があり、バスを自分達で手配する資金もない。都市部の若い人も多分免許を持たない人が結構多いと思うので、これからは自動運転とか期待されてくると思っている。

都市計画係長 その通りのご意見だと思う。市内に観光にいらっしゃる外国人の皆さんもほとんど徒歩か自転車で移動をしている。朝日には大鳥池までの登山や湯殿山神社など多くの方が訪れる観光地がある。やはり観光客の交通手段をどのように確保するかということは、地域経済を考えていく上でも非常に重要なご意見であり、参考にさせていただく。

会長 他に質問などございませんか。続いて、次第（2）（3）（4）の協議に入ります。事務局より説明をお願いします。

（事務局説明）

会長 どなたか発言ございましたら挙手をお願いします。

委員 ①資料2の具体的な事業・取組の4番目、広域コミュニティ施設の大規模改修による環境整備とあるが、すまいる（朝日中央コミセン）のエアコンの調子が悪い状態にあり、どの程度の改修を考えているのか教えていただきたい。②資料2の具体的な事業・取組の5番目、若者団体による観光地など地域資源を活かしたイベント開催への支援とあるが、どのような支援を考えているか。

総務企画課長 ①コミュニティ関連施設として市内コミュニティ施設は市全体で35施設あり、それぞれ経年劣化等が進んでおり、施設の総合劣化度の判定を行い劣化が進んでいる施設から優先的に整備している。質問いただいた朝日中央コミセンは昭和58年度に建設し40年経過しているため、大規模改修等が必要な施設と認識している。市全体の整備計画の中で改修の準備を進めていきたいと考えている。

委員 ②資料3の朝日地域まちづくり未来事業NO.2朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト事業で“チームワゲショ”の活動を支援しているが、今年度は自主事業として、六十里越街道や大鳥池など地域の自然や歴史に触れる機会が数多くあると伺っている。そのような地域を知る活動の一環として若者のネットワークのさらなる拡大に繋がるよう期待を含めて行政でも支援していきたいと考えている。

委員 “チームワゲショ”の活動を担当しているが、メンバーは若い年代の感覚で色々な意見を出してくれる。子供の頃に体験した自然活動をもう一度やってみたいということで六十里越街道トレッキングや大鳥池登山など行ったが、色々なイベントを行いたいと思っても実際には環境整備が必要だと思う。自然はあっても芋煮会はどこでできるかとなったら、良い場所が見当たらなかつたりする。自然活動を行う時の環境整備への協力や支援をしていただけるとありがたい。

委員 大鳥に移住して10年経ったが、地域の人から色々な山のこと、山菜やキノコ、狩猟のことを教えていただいた。これから、山を知って、山で山のものを使って生活してきた人がどんどん少なくなると、（目的を持って）山に入られる人が少なくなり、それはあまり産業には大きく結びつかない現状かもしれないが、鶴岡市全体として山のことを知らない人が減っていくことは大変な損失だと思う。積雪や雨量、クマ出没件数とか統計データで表されるものがあるが、感覚的に普段から見聞きしている人たちが、例えばあそこの山で土砂災害が起きそうとか、大水が出たらあの道が崩れるだろうとか、災害に限らず、今年は特にクマの出没が多く目の前に当たり前にいる中に自分たちもいるという感覚が、朝日の中では普通だと思う。それで苦情なり対応なり向かっていくのが気持ち的には良いと思っている。山菜とかキノコとか狩猟を介して、そのような感覚を育てる機会があったら良いと思うが、それはすごく時間がかかりとても難しいことだと思う。多分、そういうのが赤川の上流域に住んでいる人たちの示せる価値だと思う。例えば、山大農学部の演習林では、学生が様々な学習をされているが、しっかりと生活の中とか山の中の仕事に関わってもらうようなスパンを例えば一つのゼミの中で機会を作り、しかもその仕事先も朝日の生活圏の中に農協や森林組合があるとか、そのタイミングで空き家を紹介できるとか、そのような一つの流れを作られれば山人が来るのではと考えている。それが、小国町だと企業城下町だが、狩猟に若い人や女性が入り、そういった流れができていく。人を育てるのはすごく難しいことではあると思うが、そう

いったことを長期的な目線で持てたらと思っている。もう一つは、民有林が集落の目の前にあって所有者が細かく分かれているが、実際の所有者が誰か分からなくなっていくという問題がある。村の周りの森なので、全く入れないとか手入れができない状況になると、間違いなく森は攻めてくる。集落の世代が変わった時に、そこに住んでいる人たちがその森に入る権利があるかは分からない。法律の次元かもしれないが、森を手入れできる形を少し整備する必要が出てくると思っている。

産業建設課長

ご意見いただいたことは理想的な形で、山大農学部ゼミの講座の一つになれば良いと思う。実現させるには難しい部分もあるが、山や森に親しむための活動を少しずつ行っているものはあるものの、山での暮らしを伝えるまでには至っていないのが課題と感じている。また、民有林については、鶴岡市では森林組合で広域的な管理ができるように連携して取り組んではいるものの、個人を特定して承諾を得ながらの作業となり、かなりの時間を要する状況にある。

総務企画課長

参考までに、農山村の体験の一部ではあるが、大鳥自然の家は自然環境教育を行う唯一の施設であり、伊藤委員もご存知の通り、ウサギ巻きや山菜・なめこ収穫の体験など、農山村での生活の一部ではあるが、指定管理者である大鳥地区村づくり推進協議会による自然体験の場を提供する取り組みを行っている。

委員

朝日地域共創プロジェクトへの支援に以前から取り組んでいるが、いま動きが止まっている感じがしている。最近はキャンプも流行し、SNSを見ると朝日地域には結構楽しい所が多くあると思いながら眺めている。できれば、個々で発信している情報を共有し合って発信できたら情報拡散に繋がり、それぞれへ来訪するきっかけになるのであればとても良いこと。やはり、まだまだ発信しきれていない感じがして、自分では一生懸命やっているつもりでも知らなかったと言われることがたくさんある。もう少し皆で共有し合い、情報発信できたら良いと思うが、どのように考えているか。

総務企画課長

朝日地域共創プロジェクトは、東北公益文科大学と朝日中央地区自治振興会と民間企業が連携して進められてきたもので、市が活動を支援している。現在、活動内容を一部見直しするなど、今後のあり方を打ち合わせて検討を行うと伺っている。今後も地域課題の解決のために行う事業として、市が支援していきたい。活動について、この機会に皆さんの方から提案をいただければありがたい。

委員

一点目は、資料2の文言で、支援する、推進する、支援強化する、の使い分けについて聞きたい。二点目は、住み慣れた地域で安心して健やかに暮らし続けるための支援体制を図る、とあるが、健やかに暮らし続けられない条件は何か、良いところはどこかと考えた時にどのように支援しメスを入れるか。例えば従来から言われてきた雪の問題、買い物する場所まで遠い、バスがない、職場まで遠い、働き場所がない、これらが総合的な課題となり子育て支援に支障をきたしているという意見が今まで幾つも出ていた。それらに対する支援について個々には出ているようだが、鶴岡市といえども広範囲であり、朝日地域ならではの支援が必要だと思う。先ほどから地域の良い点がたくさん出されているように、いかに大自然を活かすか、伝統文化を活かしていくか。三点目は、人材育成という言葉が多く出ているが、人材育成と合わせて組織育成が大事だと思う。朝日地域では婦人会が消滅した。先般、市

政施行記念式典に出席したが朝日から婦人会が出席していなかった。観光の面でも随分力を入れて良いことだが、観光協会も出席していなかった。観光でこれだけ力を入れているが、観光協会という組織は一体どのような活動をしているのか日頃から疑問を持っていた。朝日庁舎では一生懸命に取り組んでいることが分かるが、団体として組織としてどうなのかと思っている。これからの人材育成や組織育成について、このような地域では行政が相当関与していかないと育成や維持ができないのが実態だと思う。ワゲショは非常に良いと思うが、組織支援の面では行政がかなり関与していかないと活動していけないと思う。過疎地であればあるほど公務員が多い。手を厚くして加えないと維持管理できないということ。朝日地域は高齢化、人口減少が進み、市街地から見ればおそらく10年先行していると思うので、もっと行政関与をしていかないと組織育成ができなくなってくる。その結果、人口減少に歯止めがかからない。4点目、企業誘致について、庄内は地元の新卒の定着率が一番悪い。悪い理由も色々あるが、企業誘致や団地造成も非常に結構なことだと思うが、新規に誘致することは非常に困難な状況なので、まず既存の大企業が地元の中小企業に発注してもらえらる形をとっていただきたいので、そういう呼びかけをして欲しい。鶴岡市の地元発注率は10%未満であり、他から全部調達しているわけで、地元発注してもらうことで働く人たちを含めて経済が潤い、産業振興にも繋がるのでこれらも考慮していただきたい。

総務企画課長

1点目の支援と推進について、一部整理が取れてない部分もあるが、支援に関しては、相手先がいてそちらに対しての支援という形になり、行政自ら行うものについては推進という形としている。一部不整合があるかもしれないので、改めて確認させていただく。続いて、住み慣れた地域で安心、安全に生き生きと暮らしていけるようにすることが総合計画や地域振興計画の根幹に関わる部分になるかと思う。委員ご指摘のとおり、雪の問題や距離があるという地理的な要因は確かにあり、その方策の一つとして物理的な距離は縮めることがなかなかできない。しかし、一例としてこれまでの道路改良を進め、距離的には短くはならないが道路環境の整備が図られたことで時間的な短縮ができている。加えて、今後はデジタル技術を活用してできる限り距離を縮めていきたいという考えを持っており、具体的な取り組みについてはこれから検討していく。今回の改正の柱として、デジタル技術のモデル活用を掲げている。また、人材育成については、委員がおっしゃる通り、婦人会、子供会育成会、交通安全母の会が解散している。現実的に会員の皆さんの高齢化が進み、地域の中からの選出が困難だったという事情もあり、残念ながら解散という形で進んでいる団体がある。一方で、ワゲショのような緩やかな形で立ち上がっている組織もあり、事務局を庁舎で持っている部分もあるが、会員の皆さんが組織の必要性を考えていらっしゃる中でやめる団体も出てきている。行政としてもできる限りの支援を進めて参りたいと考えており、組織のこれまでのあり方や歴史も含めて検討・協議し、より良い形で進めながら会員が増える取組をしていきたいと考えているが、なかなか難しい現状にある。

産業建設課長

観光協会の取り組みが見えてこないという点について、観光協会と検討し、今後は見えるような活動に取り組んでいきたい。また、地元企業への発注率が低い点につ

- 委員 いて、地元の中小企業への発注を促すための呼びかけについて意見として頂戴する。先ほど総務企画課長の説明で、支援、推進、支援強化の使い分について、鳥獣被害防止対策への支援強化とあるが、予算計上の順位とか重要事項とか意味があるのか。
- 産業建設課長 資料2の2枚目に記載の具体的な施策「鳥獣被害防止対策への支援強化」について、今現在、鳥獣被害対策の支援は行っているが、今年のクマ出没件数やそれ以外の鳥獣被害等もかなり顕著になってきている。その対策として、狩猟免許を取得される方への支援として免許費用の補助や、農作物を守るための電気柵や防鳥ネット設置への補助を通じて支援を行っているが、それらの取組をより強化していくために「強化」という言葉を付け加えた。
- 市民福祉課長 子育て支援について、第1回地域振興懇談会でも保育園の時間帯へのご意見をいただいている。参考資料4の13番に保育園に関するご意見への回答としてまとめているが、現在、朝日保育園の保育時間は朝7時30分から午後7時まで、延長保育は午後6時半から7時まで行っており、今後は指定管理者と連携して周知を図っていく。さらに、先日行われた厚生専門委員会においても幼児教育保育施設における保育の質の向上、運営の維持に寄与する支援を行うということを新たに付け加えており、大項目「福祉と医療」においてご意見を反映した形となっている。それぞれの地域の地理的な特性などを踏まえた保育のあり方を検証し対応するというので、今回、見直しの予定になっている。
- 委員 先ほどから話題に出ているワゲショの担当をしているので活動についてお話させていただく。総務企画課の皆さんからはワゲショに対して色々なアドバイスをいただいている。ワゲショメンバーから様々なアイデアが出ているので紹介させていただく。この前、大鳥池のタキタロウ山荘に一泊するイベントを企画したが、メンバーから、職場で朝日地域外の方から朝日と言えばタキタロウだという話になり、とても盛り上がり、タキタロウを知っている人が多いことに気づかされたとのことだった。タキタロウに的を絞ったイベントとして、何年かに1回は大鳥池に舟を出して釣り体験できるのも良いのではないかと。庁舎に相談していつかイベントができればという話があった。また、小さい頃から河原で芋煮会を行う文化があったが、ワゲショに集まってくれる若者達は自然や人に親しみを持ってくれているので、小学校も忙しいと思うが、芋煮会を通じた人との繋がりづくりとして、地域に親しむために自然の中での交流の場を作れたらとの話が出た。テントサウナのイベントで初めてサンチュアパークを使ったところ、設備も整い綺麗でとても良い施設だが、少し料金が安いという声が上がった。朝日にも綺麗なオートキャンプ場があることを知られていないのはもったいないと思う。もう一点、私は「あさひ郷土かるた」を作った世代だが、集まった若者は雪上で郷土かるた取り大会を経験しており共通の話題になった。そこで、郷土かるたの取り札となった場所を巡り歩くことも楽しいのではないかと話になった。取り札にある「へぐりのまんぼ」は実際にどこにあるのかなど身近にあっても知らない所があり、地域をより深く知るイベントを企画することも面白いと考えている。イベント企画をするにも資金面等の課題もあり、支援をいただきながら開催していきたい。
- 委員 先日、自治会の自主防災会の訓練に参加したが、自主防災会が出来た当初は消火訓

練とか様々な訓練を実施してきたが、今は何をすれば良いか分からなくなっている状況にある。一番気になっているのが、最近大雨とか災害が時々発生しており、発生すれば大災害という状況の中で、最終的には地域の防災力が要になってくると思うが今はその状況にはない。そこに支援とあるが、自主防災会が何をすればいいとか、行政からアドバイスなりしていく必要があると感じている。

総務企画課長

確かにそのような状況があると感じている。昨年度、朝日地域を会場に鶴岡市総合防災訓練を行い、多くの皆様からご参加・協力いただいたが、これが契機になり、一部自主防災組織での取り組みを希望する話が出ていると伺っている。いただいたご意見の通り支援について引き続き検討していきたい。

委員

地域の農業では高齢化がかなり進み、集まると平均年齢 70 後半というのが朝日地域の現状だが、その中で、若い人達もとても頑張っている。若い人を長く続けさせていくにはどうしたらいいかを常日頃考えているところで、今、集中的に若い方達に農地を集めているが、それも少し重荷になるのではと思っている。皆さん年は取るし、分散しても農業はやっていけるのかとか、具体的にこうした方がいいという案はまだ全然ないが、そこも軽減していかないと赤字での農業は続いていかない。ワイン産業についても、本当に高齢化がかなり進んでいる状態で、大きい面積を持っている農家は 70 代がほとんどである。その方たちが辞めた時に、自分がおそらく若手になるが、これを私が全部引き受けられるかと言ったらそれは無理な話になる。だから、朝日地域全体で、例えば農繁期に普段農家以外の仕事をしていてお休みの方に、短時間でも良いので農業を手伝えるアルバイトができるようなシステムがあればとても心強いと常日頃考えている。また、今年はクマの出没がとても多くブドウがかなり食べられてしまい、対策として電気柵を張った。去年子熊がたくさん生まれたので今年はクマが多くいるのは分かっていたが、野生鳥獣との住み分けを徐々に行っていないといけな時期に来ていると感じている。人間が勝手に山に入ってクマの棲み処を追い出したから、里に下りて来ている現状もあり、人間が行ったことで、そこは何とかしないといけないと思っている。

委員

地域防災について、越中山の消火栓についているホースを消防団から点検してもらったら穴が空いていて全部だめだったので十何万円かけて全部買い替えした。よそではそのような点検を行っていないと思うが、きちんと点検をさせているか。結局、予算がないと買えず、地域で買っている状態だが、逆に言えば役所で経過年数に合わせて交換必要だと言えるはずだ。データを見れば耐用年数が分かると思う。いざという時、ホースに穴が空いていて水が出なくなったら大変だ。笑い事じゃ済まない話なので予算をみながら定期的な交換をしてもらいたい。消火栓も一気に設置はしていないはずなので、耐用年数が分かるはずだ。そこを対応してもらわないと、たまたまうちの集落は予算があったから対応できたが、できない所もあるはずだ。それを役所で予算がないと言えば、火災時に消火栓があってもホースが使えなければだめなので対応をしっかりとってもらいたい。

総務企画課長

消火栓ホースについて、現在は自主防災や自治会管理であり、消火栓ホースの管理をお願いしている。市の支援措置としては、住民自治組織総合交付金の中から自主防災にかかる経費を少額だが毎年支出している。設備の更新に関しては、各自治会

や自主防災単位での更新をお願いしている現状にある。委員にお尋ねするが、消火栓ホースの性能検査は消防団で行っているか。

委員 消火栓の消火栓ボックスやホースは自主防災関連なので、消防団としては今、管理はしていない。

委員 うちの自治会では毎年点検している。水を出しての点検はしていない。

委員 実際に使えるかを点検する場合、水道が動くので許可が必要で勝手にはできない。だから行政がやればいいことで、水道部の連絡も行政同士で行えば一番簡単だ。地域で水道部に連絡して水道を出すことが出来るわけがない。

総務企画課長 訓練に関しての支援に関しては、こちらに依頼があった場合は申請等の支援を行っているケースがあったので相談していただきたい。

委員 できれば対応していただきたい。

支所長 そのような必要性があるということで、自治会の集まりでの注意喚起など、対応を図っていききたい。

委員 越中山地内のため池に準絶滅危惧種の植物が生息して新聞にも出ており、子供達のために見せた方が良くと思うが逆に立入禁止にしている。地域の誇りになるものを見るなどと言っていることに矛盾がある。どのような考えで行ったのか、立入禁止は危険だからか。

産業建設課長 越中山のため池に「イヌタヌキモ」という珍しい準絶滅危惧種の植物が群生していると新聞記事に出ており、自治会からは以前よりため池には転落防止の防止柵設置が要望されていて、今回、実際に自治会長さんからも新聞報道以降に現地を見に来られる方もいらっしゃるとの話を伺った。ため池は自治会で管理していただいているので、自治会の方々が草刈をして危ない場所なので近づかないようにロープを張っているとのことであつた。今後、ロープを乗り越えて入られても困るので、近づきすぎないように注意喚起が必要とのことで立入禁止看板を作っている。ため池の脇に市道があるが市道のガードパイプの根本が危険な部分があり、誤って触れて転落されると困ると自治会から相談を受けていたので、ガードパイプにも触れないように立入禁止の案内を貼っていただくことを自治会長さんをお願いしている。市道脇のガードパイプは市道管理として今後更新を考えている。

委員 前回から比べると具体的な方策が良く見えてきて、色々なことに取り組みまれて大変だなと思う。高齢化、少子化、過疎化が進む中で施策を全部実施して成功させることはなかなか難しい。地域の中で問題に対する細かい振興策が出てくるのは良いことだが、外の力を借りるとか、何かを誘致するとか、そういった方向性も考えてみるべきではないかと思う。例えば山岳地での風力発電の誘致を考えると、羽黒地区は山岳信仰とか景観問題で立ち消えになったようで、今の加茂地区も住民の健康被害や環境問題があり頓挫したようだが、朝日地区のこの膨大な山岳地で森林経営に適していないような部分は広大にあるので、風力発電の誘致やそのような考えについて、施策の中に入れなくても考えについて少し話し合いをしてみてもと思う。それというのも、朝日地区には水力発電所や変電所が10ヶ所ぐらいあり、見てのとおり鉄塔だらけで送電網がたくさんある。それを売りにして民間の風力発電を誘致するとか、そういったことを少し考えてみてはいかかかなと思った。外の力を利用

委員

することで良い波及効果が出ると思う。林道が整備されたり山岳道路ができたりすることもあると思うので、少し考えていただければと思う。

資料1のP2 ⑦中山間地域の課題解決に向けたデジタル技術を活用について、市民サービスの提供とあるが、市民サービスの提供だけで果たしているのかと思う。参考資料3のP7にある今後の方向性として、地域づくりにデジタル技術の活用とあり、朝日地域をモデルにしたデジタルの環境整備を市として進めていく考えがあるので、地域づくりという文言が入った方がいいのではないかと思った。関連して、資料2のデジタル技術活用について、地域づくりと先ほど言ったが、中山間地域のデジタル活用は政府でも進めているが、それを参考にしながら地域づくりに繋がる課題解決としてのモデル事業を展開すべきだと思っている。西川町では、LINE（ライン）を使ったオープンチャットで、登録すれば誰でも町の情報やグループの情報などやり取りができる形で進めているようだ。これまでの委員の意見を聞くと、情報を共有していくことは非常に大事であり、朝日は広範な地域であるので隣の自治会で何をしているか分からない状況ではだめだと思う。デジタル化により、常に隣の情報を得られる形のものが必要になるかと思っている。コミセンで進めている地域創生のプロジェクトチームを作っていくことも当然視野に入れながらだと思うが、誰でも参加できる仕組みを作っていくことは大事で、そのためにスマホ教室の開催や人材育成への支援に繋がっていくと考えている。また、それぞれの自治会長さんにタブレットを支給して、防災面で何かあった時にいち早く庁舎と結んで、状況を瞬時に把握できるようにしていくことも必要だと思う。デジタル戦略の先進例を朝日地域で作っていくことについて、行政サービスだけでなく地域づくりに活用するという視点で物事を進めてもらえればありがたいと考えている。もう一点は、以前から何回も言ってきたが、中山間地域等直接支払の交付金、多面的機能支払交付金等の事業を進めるにあたり、何とか地域づくりに使える補助金があるので組織化ができないか、それぞれの事務処理が煩雑なので面倒見てもらいたいとも言ってきた。今回は広域化の事業展開があるので、事務局をどこかに置くことになると思うが、コミセンに事務局を置いてもらい、その事務局と一緒に地域づくりを進めながらであれば、雪下ろしや草刈など人手が足りない地域に対して交付金が使えらると思っている。そのような部分に広域的に手を差し伸べながらできる事業展開があるので、それらを十分に考えながら今後事業展開を進めてほしい。

総務企画課長

デジタルについて色々な意見をいただいているが、デジタル技術の活用については、デジタル化されたからといって全ての課題が解決できるわけではないことは、皆さんご存知の通りで、あくまでもデジタル技術は方法論の一つだと考えている。地域づくりを文言に入れてはどうかという意見をいただいたが、資料1の⑥、⑦それがすべて地域づくりに繋がるものだと考えると、方法に基づいた解決策の一つとして市民サービスの提供であり、個別の施策として地域デジタル人材育成を今回挙げさせていただいた。ただいまのご意見を伺い、文言に関して改めて整理をさせていただき、皆様にお示ししたいと考えている。先ほど西川町のLINE（ライン）の紹介等があったが、朝日地域ではモデル的な取組として、LINE（ライン）を活用したマイナンバーカードの受取や予約申請について、現在も朝日地域だけで行って

いる。モデル的事例ということで全市展開の前に試験的な運用として取り組んでいる事例もある。今後、市民サービスの提供については、朝日地域が先駆的な形で取り組んでいきたいと考えているので、その都度、皆様方にも方策をお示しし情報提供しながら進めて参りたい。

産業建設課長

中山間地域等直接支払と多面的機能支払交付金事業を活用した広域化について、今、集約を行っており参加団体の確認をしている。その後、皆様方にお話させていただき、提案いただいたコミセン等も事務所として使うことは考えられるため、検討していきたいと考えている。

その他 なし

4. その他

総務企画課長

他に皆さまから何かございますか。
無ければ閉会のご挨拶を今野副会長にお願いしたいと思います。

副会長

皆様お疲れ様でした。これを持ちまして、朝日地域振興懇談会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

(終了 20時05分)